



こんな本も読んでみましょう

選者：日本ブック協会 理事長 有元 秀文

中国の
民話

「巨人グミヤー」(「けものたちのないしょ話より」)

巨人(きょじん)が、ちきゅうをつくったはなし

天も地(ち)もなかったとき、神(かみ)の巨人グミヤーと、十二人のむすこたちは万物(ばんぶつ)をつくった。ところが、太陽の九人姉妹(しまい)と、月の十人兄弟(きょうだい)が、うつしい世界(せかい)をつくったことをねたんで、めちやくちゃんにこわそうとして、光(ひかり)で地上(ちじょう)のものをやきこがした。おこったグミヤーは、ゆみで太陽(たいよう)と月を、いおとしたので世(よ)の中はまっくらになった。それでグミヤーは…。

中国の
民話

「チャン・サンとえんまさま」(「子どもに語る中国の昔話」より)

えんま大王と、たたかってかった男のはなし

チャン・サンはよい人だった。しかし地獄(じごく)のえんま大王は「よい人の命(いのち)をみじかくする」とかいてきめていた。えんま大王の手下がつかまえにくると、足にとげをさしておいかえした。べつの手下がつかまえにきても、つぎつぎにおいかえした。とうとう、えんま大王がつかまえにきた…。

朝鮮の
民話

「ナンキンムシのさかもり」(「ネギをうえた人－朝鮮民話選」より)

ノミとシラミが、ナンキンムシのパーティーで大げんかをしたはなし

ナンキンムシのおとうさんが、たん生日のおいわいに、ノミとシラミをまねきました。足のはやいノミは、おそいシラミより先について、おさけをのんで、ねてしまう。あとからついたシラミは、はらを立ててノミをけとばした。ノミとシラミは大げんかになった…。

作：
松谷 みよ子

「にげだした貧乏神」(「瓜子姫とあまのじゃく」より)

貧乏神(びんぼうがみ)をおいはらう、ほうほうとは？

びんぼうな ふうぶが、正月にたべるものがないので、かかあをつくった糸を、うりにいったがうれない。やはりうれない すみをもっていたじじいと、おたがいのものをとりかえた。そして火をがんがんおこした。すると、あつさに、きたない貧乏神が四五人出てきて、いえをでていってしまった。かわりに、ふくのかみが入ってきて…。